

第2回 特別活動研修会 研修報告

講演 『特別活動の指導法から考える学級づくり』

【世界一の学級づくりの五箇条】～勝負の2学期！安定した学級への五箇条～』

講師 東京福祉大学教育学部教育学科専任講師 安次嶺 隆幸先生

安次嶺先生から、特別活動の指導法から考える学級づくりのポイントをお話していただいた。講演の中には、安次嶺先生が教職現場にいたときの失敗談、そのあとの児童・生徒との関わりから見られた子供たちの変容など、非常に興味深いお話を聞くことができた。また、安次嶺先生の考える【世界一の学級づくりの五箇条】に沿った話も聞いた。

○第一条【変化はクラスの成長の証】

4月の学級開きが黄金（ゴールド）の3日間とすれば、9月はシルバーの再学級開きというお話があった。これが、とても心に響いた。2学期に入ると、1学期にできていたことができなくなったり、生徒の友人関係が変わっていたりと、いろいろな変化がある。その変化を見逃さないように、4月に学級開きをした初心を忘れず、2学期をスタートさせたいと思った。

○第二条【授業中の発言に気を付ける】

子供たちの変化に気づくために大切なことは、子供たちの会話から発見できる。よく発言する子供のみではなく、内気な子の小さなつぶやきを大切にできるような授業を心がけ、学級の空気をよりよいものにしていきたいと感じた。

○第三条【休み時間ウォッチング】

授業中の発言の次に注意したいことは、休み時間の子供たちの流れである。1学期と比べて、休み時間に子供たちのいる場所が変わっていたら注意が必要である。グループができており、その仲間意識が強すぎて、他の子を排除している雰囲気は危険である。授業中だけでなく、休み時間の様子を見ることも非常に大切だと再確認できた。

○第四条【二刀流の褒め方をする】

授業中、休み時間の子供たちの変化を把握したら、次はいかにその成長を意識させるかが大切である。褒め方にもいろいろある。その現場ですぐ褒める。また、その行為を覚えておいて、時間が経過した帰りの会や後日改めて全体で褒める。このように褒めるということに対しても上手く使いこなすことで、子供への響き方が変わると感じた。

○第五条【クラスの成長を形にする】

学級の成長の足跡を残すことが大切である。子供たちは、学校生活を送る中で、日々成長している。学級で何かを成し遂げたときの大きな達成感だけでなく、一人ひとりが小さな成長をしていることもある。その一つ一つを学級の成長として、残していきたいと感じた。



講演を通して、小1～中3まで共通した大切なことを教わったと思う。これからも子供たちの素直な目を守っていけるような教師になりたい。コロナ対策でリモートでの開催となったが、2学期が始まる前にこのようなお話を聞いたことは、とても有意義な時間となった。